

背負わされた十字架

シリーズ～新イエス～

2025/4/13

スプリング礼拝

マルコ福音書15章15～22節

ピラトは群衆を満足させようと思って、バラバを釈放した。そして、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。

兵士たちは、官邸、すなわち総督官邸の中に、イエスを引いて行き、部隊の全員を呼び集めた。そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、「ユダヤ人の王、万歳」と言って敬礼し始めた。また何度も、葦の棒で頭をたたき、唾を吐きかけ、ひざまずいて拝んだりした。このようにイエスを侮辱したあげく、紫の服を脱がせて元の服を着せた。そして、十字架につけるために外へ引き出した。

マルコ福音書15章15～22節

そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。そして、イエスをゴルゴタという所—その意味は「されこうべの場所」—に連れて行った。

十字架を担ぐイエス様

- 十字架にかけられる前にひどい目にあわされていたイエス様
 - むち打たれ・いばらの冠をかぶせられた
 - 立っているのもやっとだった
- 十字架を自分で担ぐ
 - 受刑者が自分で十字架を担いで刑場へ行かなければならなかった(数百m)
 - 十字架はおそらく4~50kgあったのではないか



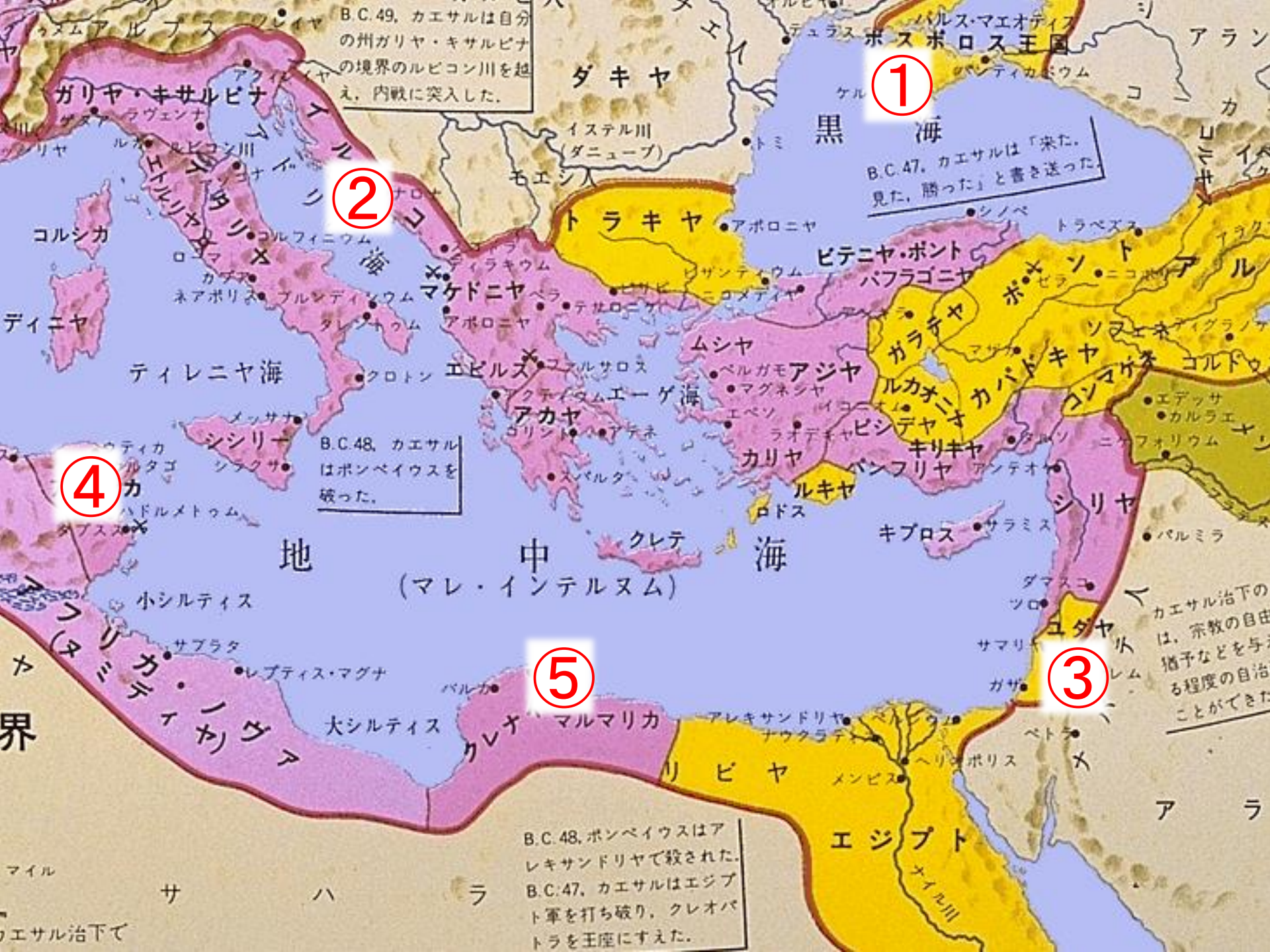
たまたま通りかかった不運な男

•「田舎から出て来て通りかかった」シモン

- 名前からするとユダヤ人が改宗者
- 「キレネ人」:ユダヤの祭りのためにエルサレムにやって来ていた
- 人々が集まっていたので何気なく見に来た

•「十字架を無理に担がせ」られた

- イエス様が衰弱し切っていて十字架を担いでいくことが難しそうだった
- そこへおそらく＜体格の良い男＞がいたので、イエス様の十字架を担がせ、「後ろから運ばせた」(ルカ福音書)



②

①

④

⑤

③

B.C.49, カエサルは自分の州ガリヤ・キサルピナの境界のルビコン川を越え、内戦に突入した。

B.C.47, カエサルは「来た、見た、勝った」と書き送った。

B.C.48, カエサルはポンペイウスを破った。

B.C.48, ポンペイウスはアレキサンドリヤで殺された。
B.C.47, カエサルはエジプト軍を打ち破り、クレオパトラを王座にすえた。

カエサル治下のユダヤは、宗教の自由と猶子などを与える程度の自治ができた。

カエサル治下で

イエス様の十字架を目撃したシモン

- 「ゴルゴタ」という所まで運んだ

- エルサレムの町はずれの小高い丘

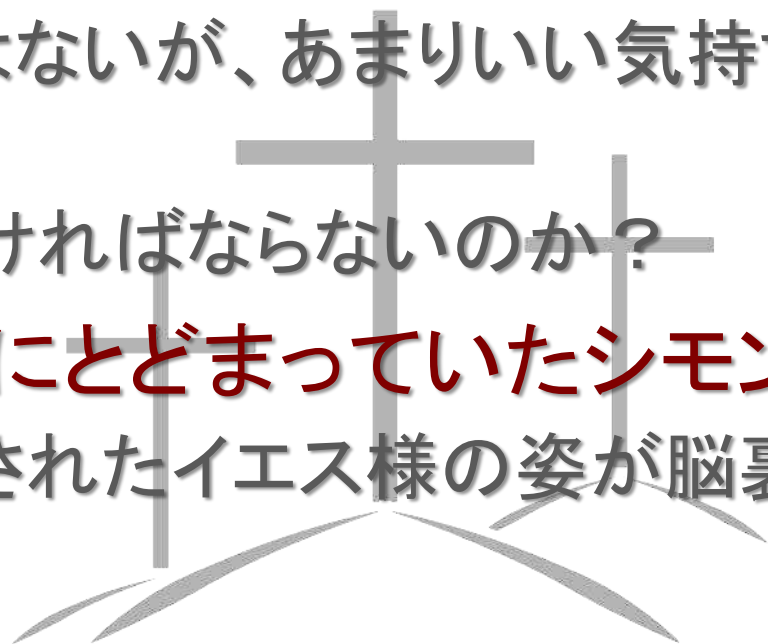
- シモンはそこで、自分が運んだ十字架にはりつけにされたイエス様を目撃した

- 彼にはまったく責任はないが、あまりいい気持ちはしなかっただろう

- なぜこの人が死ななければならないのか？

- そのままエルサレムにとどまっていたシモン

- 目の前で貼り付けにされたイエス様の姿が脳裏に焼き付いていた



その後のシモン

- **そもそもなぜ彼の名前が福音書に記録されているのか？**
 - もし十字架を担いただけでどこかに行ってしまうと、彼のことは誰にも分らなかった
- **教会の仲間に加わったから**
 - 「アレクサンドロと**ルフォス**との父」
 - 「主に結ばれている選ばれた者**ルフォス**、およびその母によろしく。」(ローマ16:13)
 - シモンの息子ルフォスはローマ教会にいる。
その母(シモンの妻)もパウロの知り合いである

アンティオキアの教師？

•「ニゲルと呼ばれるシメオン」？

- 「アンティオキアでは、その教会にバルナバ、**ニゲルと呼ばれるシメオン**、キレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったマナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた。」(使徒13:1)
- 「ニゲル」とは黒人のこと<キレネ人

•ということは…

- シモンはイエス様の十字架を担がされた後、イエス様を信じる者となり、彼の家族も初代教会において重要な働きをしたことになる

背負わされた十字架

- シモンにとっては事故のような不幸な出来事だった
 - 見ず知らずの人の十字架を担がされる
 - まるで自分が死刑にしたような気持ちになる
- 実はその十字架は自分のためであったことを知る
 - その後シモンは、イエス様は自分の身代わりに神様の罰を受けて死んでくださったことを知る
- イエス様を救い主として信じ、イエス様のために人生をささげる

それから、イエスは皆に言われた。
「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

ルカ福音書9章23節